

箴言

箴言とは一般的に知恵を与えてくれる短い格言のことで

この書にはそれがたくさん収められています

しかしそのほとんどはこの書の中

ほどにある 10 章から 29 章にあり

1 章から 9 章までの最初の部分

30 章と 31 章の結びの部分はまた違う内容になっています

1 章の 1 節から 9 節は導入で この書とソロモン王の関係を紹介

しています 第一列王記の 3 章でソロモンは神

にイスラエルを正しく導くための知恵を願いました

彼は当時の世界で誰よりも知恵のある男として知られるようになり

第一列王記 4 章には彼が幾千もの箴言や詩を書き

植物や動物についての知識をまとめたとあります

つまりソロモンはイスラエルの知恵文学の父のような人です

この書のすべてが彼によって書かれてはいませんが

彼はイスラエルの知恵文学の第一人者でした

導入部分にはこの書を読めば知恵が得られるとあります

私達は知恵のある種の知識と考えるかもしれませんが

ヘブル語のホフマーとは知識に限られてはなく

実際の行動をも指すので技能や技術の意味になります

そのため出エジプト記 31 章では職人たちがホフマーを持っている

と言われているのです

箴言は生活の中で役立つ実際的なスキルを教える書です

導入部分で知恵を得るための鍵が紹介されます

それは主を恐れること恐れるとはこの場合怖がるという意味ではなく

神に対する健全な畏敬の念と人間としての分をわきまえるということ

ですつまり人間は神ではなく善と悪の定義はできず

むしろへりくだって神の定義を受け入れるべきだと言っているのです

たとえそれが自分にとって不都合であったとしても

導入に続く最初のセクション 1 章から 9 章には

短い格言はありませんここに収められているのは父から

息子への 10 の訓戒です

その内容は知恵に聞き従い神を 恐れよということで

これこそが正しく高潔で寛大な 人生のあり方で

成功と平安をもたらすものなのです

また父は息子に愚かさや悪を退けるように警告しています

そうでないと自己中心と傲慢に陥り
その行きつく先は破滅と恥だからです
最も目指すべきは知恵を追い求めることと神を恐れることなのです
この倫理の因果関係はこの書全体を貫いています
この父からの訓戒は聖書の知恵文学がどんなものか
また聖書のほかのジャンルと比べてどう異なるかを示しています
知恵文学は神が作った世界でどう生きるべきかを教えてくれますが
知恵はモーセがシナイ山でイスラエルの民に与えた様な
律法とは違います また預言者が神から預かり
民に届けたことばである預言でもありません
知恵文学は神の民が何世代にもわたって受け継いだ
神と人とを重んじる生き方についての洞察を集めたものなのです
箴言は知恵についての人の言葉であると同時に神の言葉なのです
さて1章から9章の大事なテーマをもう一つ見てみましょう
それは知恵を女性に擬人化して語る4つの詩です
この知恵である女性は自分を追い求めるように人間に呼びかけます
彼女は世界のどこにでも存在し人が彼女に頼ることによって
賢明な判断をしていると言います
例えば人が寛大だったり性的なモラルがしっかりしていたり
正義を貫いたりするときそれはこの知恵の力を借りているというわけです
この知恵の女性の詩はユニークな表現法を使い善と正義とは
神が作った世界を満たす普遍的な存在であると教えています
神を恐れ賢い生き方をすることは創造された世界の原理であり
人間がこれに逆らえば自らに危機を招きます
父の訓戒と知恵である女性から大事なことが学べます
箴言は単なるアドバイスではなく
先祖から知恵を学ぶようにとの神ご自身からの呼びかけなのです
そして10章から29章の次のセクションには
たくさんの古代の格言が収められています
これらは知恵と神を恐れよという教えを家族仕事
近所づきあい友人関係セックス結婚お金怒り赦し
お酒借金など人生のありとあらゆる場面に適用した格言です
これらの格言はすべて1章から9章にある価値観に基づいています
また一つ一つが短く覚えやすく読者が何度も読み返して体得して
いくものとなっています 格言を読むにあたって
いくつかのポイントがあります

まず箴言とは大抵こうなるという
原則を教えています 神を恐れ賢明な判断をすれば
物事は大抵うまくいくというように
逆に神を恐れず愚かなことをすれば物事は大抵うまくいきませんただ
これは必ずではないのです ですから箴言とは約束ではありません
成功の方程式でもありません 例えば
主への恐れは日数を増やす悪しき者の年は短くなるとか
若者をその行く道にふさわしく教育せよそうすれば年老いても
それから離れないという格言があります 確かに神を恐れて正しく生きれば
健康的で長生きする可能性が高いでしょうし
子どもを愛情深く育てればいい子が育つ可能性が高いでしょう
しかし絶対ではありません この世界では残念なことが頻繁
に起こり得ます ですから箴言とは原則について
述べているのであって 例外はたくさんあるということ
です そして知恵文学自体もそのことは
わかっていて ヨブ記や伝道者の書にその例外
が記されています 人生とは一つの公式に当てはめ
られるほど単純ではないので 複数の知恵文学を全部読んで大きな
視野を持つ必要があるのです それを踏まえて最後のセクション
である 二つの詩に目を向けてみましょう
最初の詩はアグルという人のものです
彼は自分の無知と愚かさを認識し神の知恵を切実に求めます
すると彼はよりよく生きるための神の知恵が
聖書を通して与えられていると悟ります
アグルの聖書にある神の知恵を聞く積極的な姿勢は
箴言を読む人のいいお手本です
最後の詩はユダヤ人ではない王の
レムエルに関するものです 彼は母に教えられた知恵を後世に
伝えています まずは賢く正しい指導者である
ための知恵です 最後の詩は行の頭がヘブル語の
アルファベットで始まるもので 優れた妻を描いています
この女性は箴言が教える知恵に従って生活していて
神の知恵を仕事家庭地域の中でと生活のすべての
局面においてどう適用すべきかを示しています
というわけでこの書は父が息子に知恵である女性に聞き
従えと教えるところから始まり母から息子への賢い女性について

の言葉で終わるので 箴言は人生のあらゆる局面にある
すべての人のために役立ちます なぜなら神の造られた良き世界を
賢く よりよく生きるための道しるべだからですこれが箴言です

500字要約

箴言は、知恵を伝える短い格言の集まりで、主に 10 章から 29 章に含まれています。1 章から 9 章は導入部で、ソロモン王とこの書との関係を紹介し、知恵の源として主を恐れることを強調しています。これは神への畏敬と自己認識を含み、神を恐れることが知恵を得る鍵であると述べられています。

1 章から 9 章には、父から息子への 10 の訓戒が含まれており、知恵に従うことと神を畏れることが、高潔で成功と平和な生活の要因であることが強調されています。愚かさや悪から遠ざかり、知恵を追求し神を恐れることが最も価値のあるものとされています。

知恵の女性が擬人化され、人々に知恵を呼びかける詩が含まれており、正義や性的なモラルなど、生活のあらゆる側面で知恵を活用することが示されています。これらの格言は、1 章から 9 章の価値観に基づいています。

箴言は原則を教えるものであり、神を恐れて賢明な判断をすることが通常は成功につながると述べていますが、絶対的な公式ではなく、例外も存在することを強調しています。最後のセクションでは、アグルという人の神の知恵を求める姿勢や、異教の王であるレムエルからの知恵が示され、箴言を読む人にとって良い手本とされています。

箴言は神の知恵を通して、知恵の指導と賢明な生活の原則を提供し、人生のさまざまな局面に適用できる実用的なスキルを教えています。